



副代表幹事  
米州委員会 委員長  
**新浪 剛史**  
ローソン  
取締役社長 CEO

## 規制緩和

財政政策や金融政策より、政治判断にて実行可能な経済活性化策が、「規制の見直し」です。成長分野を中心に、規制の撤廃までを視野においた徹底した見直しを進めるべきです。

例えば医療の分野。ITをはじめとした技術の進歩は目覚ましいものがあり、これらを活用することを前提に、いろいろな制度の見直しを検討してもよいのではないのでしょうか。テレビ電話システムを利用し、センターにいる薬剤師と全国からコンタクトすることで、医薬品販売が24時間可能となれば、国民の利便性が高められます。セルフ・メディケーションの推進と医療費削減の貢献にもつながるでしょう。「混合診療」の可能性を広げるアイデアについては、民間企業等が協力できる仕組みにすることで、医療機関の専門性と外からの新しい発想力が一緒になったイノベーションが期待できるのではないのでしょうか。

農業の分野では、民間企業がより積極的に参入できるような規制改革によって活性化が可能です。民間企業が持つ資本や技術、マネジメント・ノウハウで、専業農家を積極的にサポートすることによって、質が高く安全・安心な農作物が供給できるようになります。自給率を高めるだけでなく、“質”で国際競争力のある農業に脱皮することにさえつながっていくはずですよ。

建設関係では、都市部の市街化調整区域はフレキシブルな事業展開を可能にすべきです。そういう環境があれば、新しいアイデアが生まれ、資本も投下されるようになります。短期的なデフレ対策には、不動産の活性化が最も重要といえます。

何か新しいことを考えてやろう！というのは、やはり若い力じゃないとできません。特に農業は担い手がどんどん少なくなっている中で、若い人たちが面白がって技術革新を起こす仕組みをつくっていかなくてはなりません。アイデアのある人の「こんなことをやりたい」を、金銭面からサポートすることも必要です。今、若い人たちの就職が厳しい状況ですが、夢のある若い人たちに資金を提供する仕組みを国がつくっていくべきです。

今の「規制」とは既存のものを守るための存在になっています。しかし、そこからは新しい発想も新しい価値も生まれてきません。時代時代で社会環境は変わっていくのです。ゆえに、今ある規制を絶えず見直していく必要があると考えています。

## Contents

### 01 巻頭言

新浪 剛史「規制緩和」

### 02 特集

#### 第36回日本・ASEAN 経営者会議 (AJBM)

一報告 「10年後の東アジア経済連携・  
統合と日ASEAN 関係のあり方」

一対談 「今後の日ASEAN関係と  
日本・ASEAN 経営者会議」

### 15 経済同友最前線

第1157回会員セミナー

北岡 伸一

東京大学大学院 法学政治学研究所教授

「日中関係の今後～政治と軍事～」

第1158回会員セミナー

立川 敬二 宇宙航空研究開発機構 理事長

「はやぶさ帰還、7年間の軌跡と

今後の宇宙研究開発」

第100回 TCER セミナー

伊藤 隆敏 東京大学大学院 経済学研究所教授

池尾 和人 慶應義塾大学 経済学部教授

「世界・アジア経済の展望と日本の課題」

One Company, One Athlete

～トップ・アスリートのための支援説明会～

### 21 リレートーク

中村 紀子 「子どもだからこそ本物を」

### 22 TPPへの参加を求める緊急集会

読売国際会議2010「日本の財政」

### 23 同友会スケッチ

2010年10月の記録と12月の予定

### 25 新入会員紹介

2010年10月15日現在の入退会者

### 26 私の思い出写真館

魚谷 雅彦

「ここを動かすマーケティング」